

2017. 3. 29～30 森林立地学会現地研究会

『桜島・霧島の火山活動が土壌・植生に与えた影響と防災対策』

今回の現地研究会は火山活動が活発な地域である桜島と霧島を舞台に開催しました。火山噴火が植生や土壌に及ぼした影響とその後の回復状況や、火山地帯での治山・砂防工事の現状を見学し、防災のあり方について検討しました。

1日目の朝、35名の参加者は鹿児島中央駅からバスに乘車し、フェリーにて桜島に渡りました。初めに、桜島ビジターセンターにて桜島の歴史を学びました。続いて、鹿児島大学・寺本氏の案内により、湯之平展望所から壮大な砂防ダムを見学しました。桜島での防災対策の困難さを実感しました。



昼食後、鳥島展望所にて大正溶岩上に広がるアカマツ林を見学しました。溶岩上には火山灰が30cmほど積もっていました。弱度の土壌構造が認められるなど、わずかながら土壌化が始まっていることがわかりました。国際火山防災センターでは、普段は水無川である野尻川の砂防工事の状況の説明を受け、センター内の展示を見学しました。



バス内で森林総研・稲垣氏による九州圏の地形と地質に関する視点を変えた話題提供があった後、大正の噴火により鳥居の 2/3 以上が埋もれてしまった黒神埋没鳥居を見学しました。宿泊地に向かう道中、森林総研・酒井氏からは熊本地震の状況と研究課題の紹介、森林総研・齊藤氏からは屋久島照葉樹林の立地と植物分布・成長の関係に関する説明がありました。



宿に到着、森林立地学会の総会が開かれました。総会では各審議事項について討議が行われました。表彰式では、森林総研・石塚氏らの論文が論文賞に選ばれたことが発表され、受賞者の石塚氏、稲垣氏、今矢氏に丹下会長から賞状が渡されました。

2日目の午前中は高千穂河原にて、森林総研の山川氏および石塚氏の案内により、2011年新燃岳噴火による植生被害と土壌影響について見学しました。土壌表層への火山灰の降下状況を観察し、樹種による衰退度の違いやその後の回復状況について見て回りました。



移動中のバス内では国際農研・今矢氏から九州地方の土壌の特徴について、森林総研・山川氏からコンテナ苗について、それぞれ話題提供がありました。鹿児島県森林技術総合センターでは、内村氏から鹿児島県で取り組んでいる研究紹介があり、コンテナ苗の成長とスギ針葉リターの残存量動態に関する知見が発表されました。新原氏からはセンター内の施設と樹木園を案内いただき、南方系の珍しい樹種を観察しました。



天候が心配されましたが、見学中は雨に降られることはなく、予定通り現地研究会を行うことができました。参加者の皆様のおかげで充実した現地研究会にすることができたと思います。ご講演・ご説明いただきました方々に感謝申し上げます。

研究会の詳細は森林立地 59 巻 1 号に掲載されています。

(文責 事業幹事 志知幸治)